

## 群馬の日本画家Ⅱ 昭和後期から現代

今回の展示は、群馬県出身の日本画家の昭和後期から現代の作品をご紹介します。現在の太田市に生まれた岡田晴峰は、戦前に南画の巨匠小室翠雲の弟子として活躍していました。今回は戦後まもない時期に描いた合戦絵《源平一ノ谷合戦図》をご紹介します。伊勢崎市出身の礧部草丘は、官展系の画家川合玉堂に師事し、日本の四季を詩情豊かに描きました。前回に引き続き戦後の展開を示す作品をご紹介します。前橋市に生まれた田中青坪は、始め油彩画を学びましたが日本画に転向します。《春苑》では、切箔などの大和絵の伝統的な表現技法に写生風に描いた植物を取り合わせています。邑楽郡板倉町出身の高橋光輝も、油彩画から日本画に転向した画家です。主に装飾性の高い花鳥画を描きました。石原紫雲は、晩年に伊勢崎市内に画室を構え、雀を得意としました。出品作の鳥たちのユーモラスな表情が印象的です。前橋市出身の高橋常雄は、チベットを題材にした作品で高い評価を得ました。晩年には自らの心象を重ねあわせた故郷の風景を描いています。高崎市出身の町田久美は、国内外で活躍する現代作家です。和紙に墨や岩絵具を用いた作品は、現代に生きる人々の内面を深く掘り下げる独自の世界を形作っています。一見一筆で描いたように見える線は、実は集中力を高め長い時間をかけて丹念に描かれています。

No.	作者名	作品名	制作年	技法材質・形状	寸法(縦×横cm)	備考
1	おかだせいほう 岡田晴峰	げんぺいいち たにかつせん ず 源平一ノ谷合戦図	昭和24(1949)年	紙本着色・六曲一双屏風	各168.0×352.2	岡田玲子氏寄贈
2	いそべそうきゅう 礧部草丘	さんきょう 山峽	昭和27(1952)年	絹本着色・額装	69.0×73.0	礧部静江氏寄贈
3	いそべそうきゅう 礧部草丘	残雪	昭和31(1956)年	紙本着色・額装	48.0×61.0	礧部静江氏寄贈
4	いそべそうきゅう 礧部草丘	かぎょうせいりょう 夏暁清涼	昭和33(1958)年	紙本着色・額装	66.0×71.0	礧部静江氏寄贈
5	いそべそうきゅう 礧部草丘	せんしん 洗心	昭和36(1961)年	紙本着色・額装	80.0×69.0	礧部静江氏寄贈
6	たなかせいひょう 田中青坪	しゅんえん 春苑	昭和23(1948)年	紙本金地着色・二曲一隻屏風	163.7×165.8	
7	たかはしこうき 高橋光輝	麦実る丘	昭和24(1949)年	紙本着色・額装	184.0×152.0	作者寄贈
8	石原紫雲	みみずく 角鴟と雀図	昭和50(1975)年頃	紙本墨画淡彩・軸装	138.4×69.5	石原成徑氏寄贈
9	高橋常雄	けげん 化現	昭和47(1972)年	紙本着色・額装	150.0×75.0	高橋富枝氏寄贈
10	高橋常雄	せいちつしろう 聖地追想	昭和55(1980)年	紙本着色・額装	217.0×162.0	高橋富枝氏寄贈
11	高橋常雄	こざんしゅんせつ 故山春雪	昭和62(1987)年	紙本着色・額装	97.0×162.0	高橋富枝氏寄贈
12	町田久美	話術	平成17(2005)年	青墨、顔料、岩絵具・雲肌和紙	72.7×90.9	寄託作品
13	町田久美	Sky	平成20(2008)年	青墨、茶墨、岩絵具、顔料、色鉛筆・雲肌和紙	80.5×130.3	寄託作品

\* 作品保護のため、会場内の温度・湿度、照度を調整して展示しています。

【次回予告】 「近代の日本画」 平成29年7月1日(土)～7月30日(日)